

# Forest通信

vol. 140

森林インストラクター東京会 会報

2024年3月1日発行

## < 2024年度(令和6年度)FIT総会のご案内 >

森林インストラクター東京会(FIT)の2024年度(令和6年度)総会を下記の要領で開催いたします。

### FIT総会

日時:3月16日(土)12:30~18:00(受付12:00より)

第1部 12:30-14:00講演会 講師:多田多恵子さん

テーマ「道草さんぽの楽しみ方」

(参加費は無料。参加者は総会本会への出席が前提。オンライン配信はなし。)

第2部 14:15-15:45 総会(本会)

第3部 16:00-17:45 懇親会(参加は任意。会費2,000円。)

会場:後楽園「林友ビル」6F 日本森林林業振興公団会議室

文京区後楽1-7-12

地下鉄「後楽園」駅徒歩6分、JR「飯田橋」駅徒歩7分

総会議題:本会報の総会議事次第を参照してください。

### 出欠:

今回の総会は初めての試みとして、会場でのリアル出席に加えてリモート(Zoom)参加(傍聴)を併用するハイブリッド型式とします。

Zoom参加者は傍聴者の扱いとなりますので、出欠としては出席ではなく、欠席ですので、委任状の提出をお願いします。傍聴者扱いですが、意見や質問は可能です。ML会員は、MLにて別途連絡の総会開催案内のフォームメールにて出欠を回答してください。非ML会員は別途送付の総会開催案内に同封の葉書にて出欠を回答してください。

出欠の回答締め切りは、3月11日(月)。尚、友の会会員は、参加できません。

お願い:総会成立要件である定数(委任を含めて会員総数の1/2以上)を確保する必要がありますので、欠席の場合は支障のない限り、委任状の提出をお願いします。

尚、委任状には、議案ごとに賛否をご記入できるようにしています。

### 総会議事次第

1. 開会宣言と定足数報告
2. 会長挨拶
3. 議長選出
4. 決議事項

---

第1号議案：2023年度全体・各部会活動報告および決算報告・監査報告

第2号議案：新規活動支援制度の件

第3号議案：2024年度運営体制（役員、部会長）

第4号議案：2024年度全体活動方針・各部会活動計画および予算案

## 5. 議長解任と閉会宣言

本号は、総会当日の議事資料となります。フォレスト通信の印刷物は配布しませんので、各自（印刷等で）閲覧できる準備をして出席・参加してください。FIT名札もお忘れなきようお願いいたします。

2月「森の日」の結果を受けた仮決算見込みおよび予算案は、FITデータベース（旧HP）に掲載します。総会への出欠および欠席の場合の委任状発信の判断にご活用ください。決算見込みは、会計監査終了後に最終決算に入れ替えます。

総会は、FITの最高決定機関であり、運営全体にわたって1年間の活動を総括し、次の1年に向けての活動の方向付けをするスタートの機会となります。日頃FIT「森の日」に参加できない方も是非ご出席いただき、ご意見を賜りたく存じます。

## < 2024年度総会承認事項 >

第1号議案：2023年度（令和5年度）全体・各部会活動報告および決算報告・監査報告

### ◎ 2023年度全体活動報告

2021年9月末に緊急事態宣言が解除されて以来、FITとしての「緊急事態宣言下での活動の自粛」は解除されたままの状態となっており、更に2023年5月には新型コロナウイルス感染症は5類感染症に移行され、個人の選択を尊重し、自主的な取り組みをベースとした取り組みになりました。

但し、感染が終息したわけではなく感染防止に配慮した活動が続いています。

また、2023年度中にCone保険が適用される事故が5件発生しました。安全に対してこれまで以上に注意を払っていく必要があります。

会の年間行事としては、

2023年3月11日に2023年度FIT総会を開催。前後の講演会、懇親会も実施されました。

2023年8月11日の暑気払いも4年ぶりに実施されました。

2024年1月13日に新年会を開催。入会説明会、観察会、懇親会も実施しました。幹事の入会3年目ニレの会の皆様お疲れ様でした。

運営委員会（森の日）は、2023年4月、6月、8月（臨時）、9月（臨時）10月、12月、2024年1月（臨時）、2月と8回実施。

「森の日」の協議の中で、現行の「活動支援助成金制度」は見直しが必要ではないかとの意見が出た為、9月臨時「森の日」にてプロジェクトチーム（PT）が編成されました。このPTの検討の結果、「活動支援助成金制度」を廃止とし、新たな「新規活動支援制度」創設が提案され、12月「森の日」において3月総会に諮ることを決めました。

同PTより、年度末余剰金が多くなっていることに関連して、年会費を暫定的に2024年度を現行の5,000円から4,000円に値下げするという提案が出されました。12月「森の日」での協議では賛否両論あり、会員全員に直接関係する案件であることから会員全員に意見を求めたうえで再度「森の日」で扱いを決めることになりました。会員全員を対象にアンケートを実施した結果、計91通の回答があり、値下げに賛成が48通、反対が39通、どちらとも言えないが4通となりました。このアンケートの結果も参考に2月「森の日」にて総会

---

の議案として提案するかどうかを協議した結果、再び賛否両論ありましたが、採決の結果、議案として提案することはしないこととなりました。(詳細は、2024年2月「森の日」議事録を参照してください)

イベント関連でのCONE保険の利用実績ですが、2023年度(1月までの11か月分)3,282人で、2022年度(1年)実績3,979人を1割程度下回る見込みです。当初2023年度は昨年度より更にイベント参加者数が回復して、2019年度実績(4,314人)のレベルに戻ることが予想されていましたが、昨年度を下回る結果になりました。理由としては、イベントの安全な運営の観点からイベントの参加者数を抑え気味にするグループがあった、コロナ以降参加者も慎重になり、少しでも体調が優れない場合や天候がはっきりしない場合の直前のキャンセルが相次いだことが考えられます。

登録グループは、今年1グループ増えましたが、実働していない4グループを整理し、現在25。登録グループも活発に活動を実施しており、CONE保険の利用実績のうち、イベント数で2023年度は約4割を占めています。

2023年度の活動方針として、①知名度アップ活動促進、②活動支援助成金制度の活用、③活動参加者のすそ野拡大の推進を挙げました。

①については、FIT知名度アップの一環として2016年度から実施していた「山の日」制定記念まるごと！高尾山グリーンクリーン作戦は、「山の日」そのものが制定後7年を経過し国民に定着してきている等の理由から、「森林ふれあい推進事業」の扱いは止めることになりました。一方、従来の事業部会での外部案件は、「講師派遣」と名称を変更し、更なる市場開拓を図っています。また、広報部会が管理するホームページは会員へのアンケート結果を反映して更なる充実を図っています。登録グループのホームページも充実してきています。

②については、5月に予定していた「みどりのフェスティバル」は中止になりましたが、10月「すみだまつり・こどもまつり」を支援しました。一方、「活動支援助成金制度」そのものについては、上記の通り、廃止され新たな「活動支援制度」の提案が、総会で諮られることになりました。

③については、(公社)国土緑化推進機構が主催する2023年度「森林ESDリーダー養成講座」にFITからも参画し、小金井市立小学校全校で導入している「森林ESDプログラム」に講師として参加しました。

2024年1月末時点での会員数は、335名。昨年度末に比べて8名減。

尚、2023年度(令和5年度)の東京在住の森林インストラクター合格者は22名。内友の会関連が5名。FITへの入会者は、2月現在20名です。

**◎ 2023年度各部会活動報告**(各部会の活動報告は2024年度活動計画と併せてP5以降に掲載してあります。)

- ① 安全部会
- ② 広報部会
- ③ 研修部会
- ④ 友の会運営部会
- ⑤ 事業部会

**◎ 2023年度(令和5年度)決算報告・監査報告**

<別紙>

**第2号議案:新規活動支援制度の件**

現在の“活動支援金”制度を廃止して、本制度に置き換えるものである。

---

---

## 【目的】

FIT会員の新規活動の芽を育て、活動の場を広げる。

## 【内容】

### ＜支援対象＞

FIT個人およびFITグループが主体となって、新規に行う、FIT外の一般者向けを対象とする活動。

### ＜支援内容＞

ヒト・モノ・カネ: 広い範囲で援助する。

申請者と検討委員会(注1)で検討し、必要ならば検討チーム(注2)を作って具体化していく。

### ＜支援期間＞

毎年継続可否を見直し、有期限(最長3年)とする。

### ＜支援原資:＞

特別会計残高のうち100万円とし、原資がなくなったら本制度を終了する。

### ＜支援手順＞

FIT会員は誰でも提案することができる。

#### ステップ1: 申請書作成 (by提案者と検討委員)

提案者は検討委員会のいずれかの委員に相談しながら、提案する活動と支援を受けたい内容を明確にして申請書の形にしていく。(相談初期段階では漠然とした案で可)

#### ステップ2: 運営委員会へ申請することの妥当性の判断 (by検討委員会)

申請内容が固まった申請書を基に、検討委員会で検討し、支援内容と支援条件を明確にして営委員会に申請することの可否を判断する。

なお、検討委員会は、必要に応じて提案内容に詳しい人を指名して、検討委員会に参加させること、またはおよび、別途検討チームを作って検討することができる。

#### ステップ3: 運営委員会決議

検討委員会にて支援が妥当と判断した活動は、FIT運営委員会にて審議して承認を得る。

### ＜検討委員会＞(注1)

・FITの役員経験者、部会長経験者、副部会長経験者およびその推薦者とする、メンバー5名程度で構成し、申請者の相談に助言を行い、継続的な活動となるように導く。

- ・勿論、継続的な活動になる見込みがないものは、ダメだしもあり得る。
- ・FITとして支援するのにふさわしいと判断した案件を、FIT運営委員会に申請する。
- ・メンバーの任期は2年とし、再任を妨げない。

検討委員会にて次年度の候補を挙げ、森の日で審議し、総会で決定する。

ただし、初年度は、決めておく。

2024年度候補者(敬称略) ① 吉原邦男 ② 横尾俊弘

(2024年度の制度発足時の候補者は2名。但し、途中で増員が必要な場合は、「森の日」に提案する。)

- ・また、検討委員の謝金は、打ち合わせのための交通費相当を支払う。

### ＜検討チーム＞(注2)

検討委員会が、都度指名する。謝金は、検討委員と同じ。

---

## 【補足】

・従来の制度が資金援助だったことに対して、新制度は資金だけでなく、仲間や協力者募集による人の充填や知恵、ノウハウなどの情報提供なども含めて広い範囲で援助し、3年以内に軌道に乗るように支援する。

・既存の活動の穴埋めやFIT内部向けの活動は支援しない。

・新規活動事例

\* 高尾山で、英語ガイドを始めたい

\* 草木染、木工品、網かご、クラフト等の販売を定常的にしたい

### 第3号議案：2024年度（令和6年度）運営体制

|          |       |       |     |
|----------|-------|-------|-----|
| 会長       | 小菅智彦  | (12年) | 新任  |
| (副会長     |       |       | 空席) |
| 事務局長     | 藤岡眞   | (28年) | 留任  |
| 会計       | 飯島雅巳  | (29年) | 新任  |
| 監査       | 熊木秀幸  | (28年) | 留任  |
| 広報部会長    | 鍛冶健二郎 | (28年) | 留任  |
| 安全部会長    | 古谷一祐  | (令1年) | 新任  |
| 事業部会長    | 脇本和幸  | (28年) | 新任  |
| 研修部会長    | 小勝眞佐枝 | (25年) | 留任  |
| 友の会運営部会長 | 氏家清高  | (令3年) | 新任  |

### 第4号議案：2024年度（令和6年度）全体活動方針・各部会活動計画および予算案

#### ◎2024年度全体活動方針

お客様およびFIT会員に活動中の事故が起きないような十分な配慮をした上で、新型コロナウイルス感染症などについても感染防止対策を怠ることなく、これまで以上に安全を第一とした活動が求められています。

2024年度は、小菅智彦さんを会長に迎え、新たな体制での船出となります。

各部会の活動を更に充実し、また各登録グループが独立した活動を展開して、FITの活動がより発展していくべく努力すると共に、FITの活動の原点に立ち戻って、組織、会費、余剰金の在り方などを総点検していきます。

◎2024年度各部会活動計画（各部会の活動計画は2023年度活動報告と併せてP6以降に掲載してあります。）

- ① 安全部会
- ② 広報部会
- ③ 研修部会
- ④ 友の会運営部会
- ⑤ 事業部会

#### ◎2024年度（令和6年度）予算案

<別紙>

---

## 安全部会報告

### 【2023年度活動報告】 安全部会長

誠に残念ながら、昨年度は5件の事故が起りました。5件中4件が登山中の転倒事故で、その内2件が肋骨にヒビ、1件が手首の骨折、1件が顎の切創でした。

また5件の内1件が室内での転倒による骨折事故でした。野外活動における人身事故で圧倒的に多いのが「転倒・転落」と言われていますが、足を滑らせて転倒することは誰にでもどこでも起こり得ることであることを認識して、常に足元への注意を払うことは重要なことと思います。また会員に対して参加者の高齢化が進んでいることも考慮して、余裕をもった計画を立てることも含めた具体的な項目を示し、「安全対策の見直し」を10月1日付FITMLにてお願いしました。

安全部会の活動として、以下の安全講習を行いました。

- \* 4月6日(木)木の日研修で、ZOOMによる「安全研修・座学編」を開催しました。  
第一部ではFIT森林塾塾長の牧田一雄さんに「誰にでもできる安全なイベント運営」と題する講演をして頂きました。  
第二部では安全部会から「FIT安全対策の手引き」の使い方、CONE保険等について説明しました。
- \* 6月4日(日)に「安全研修・野外実践編」を、親子観察会の下下見を兼ねて、実際のコースを歩いて、本番で想定されるコースの状況、注意点を参加者全員で確認しながら行いました。

### 【2024年度活動計画】 安全部会長

今年度もFITメンバーの安全意識の向上を図っていきたくと思っています。従来はCONE保険受付業務、事故対応などは部会長・副部会長で行っていますが、今年度から1-2名にスタッフとして入って貰うことを検討しております。

安全部会の活動として、以下を予定しています。

- \* 4月4日(木)木の日研修で、ZOOMによる「安全研修・座学編」を開催します。  
第一部では保険代理店オフィステラ・町頭氏による講演を行います。  
第二部では安全部会から「FIT安全対策の手引き」の使い方、CONE保険等について説明します。
- \* 「安全研修・野外実践編」は、今年も初夏の親子観察会の下下見時に、実際のコースを歩いて、実践形式で行います。日程・詳細は、後日FIT-MLで連絡致します。  
新入会員の皆さん以外にもベテランの会員も奮って参加をお願いします。

以上

---

## 広報部会

### 【2023年度活動報告】 広報部会長

2021年度から新広報部会による新しいFITホームページの運用を始め、もうすぐ3年が経ちます。新システムが省力化につながるべく導入させていただきましたが、まだ十分に理解されていない面もあり、末端に新システムの作業の流れを作成しましたので、ご覧いただければ幸いです。以前と違ってスマホでも見やすくなった、他の部会のホームページが充実しているなどの言葉も耳にします。

今年度も常に新しい情報を発信し、皆様に見ていただけるようなコンテンツおよび画面構成をめざしました。

トップページに「What's new!」を設けて視聴者に何が最新の情報かを見やすく提供する

---

試みを行っています。また、各登録グループの協力を得て自然発見のページから各グループホームページの自然情報へ飛ぶリンクボタンをつけたり、イベント情報ページの先頭に各グループホームページへのリンクボタンの一覧を付けたりして、相互利益になるような画面構成を目指しました。

イベント情報については、今までの表形式を改め案内文とチラシ画像を載せ、よりビジュアル化して、参加意欲をかき立てる工夫をしました。会員皆様の受注機会の増加につながることを期待します。

昨年行ったホームページに対するアンケート調査で、会員からの意見で一番多かった「ホームページに新旧があってわかりにくい」との指摘を受け、事務局の承認を得て「旧ホームページ」を「FITデータベース」と改称し、事務局の所掌事務であることを確認いたしました。

今後は「会員のページ」という名称をなくすことも含め、より分かりやすいHPを目指します。また、JIMDOにはバックアップ機能が無いため、データ保存する為のレンタルサーバーを使用したデータ保存を開始しました。

今後も実現可能なものから順番に実施していきます。

次に各登録グループで普及しているJIMDOなど(現在14グループ中、簡易ソフトによるものは11グループ)によるホームページ作成を加速させる為にJIMDO講習会を実施しました。50名を超える申し込みをいただき、反響の大きさに驚きました。JIMDOはだれでも操作できる簡易なソフトですが、実施後の要望事項についてもできる限り応えるようにいたします。遠慮なくお問い合わせ下さい。

ホームページは画面構成だけでなく情報発信のスピードも要求されます。皆様から頂いた情報の実施までのレスポンスタイムを部内で24時間と定め、サービス向上に努める所存です。

Forest通信については、若い期のスタッフと同期メンバーが協力し、新しい視点から魅力あるコンテンツに取り組み、一部好評を得ました。今後も企画のご提案や原稿の作成など、皆さまのご協力をお願いいたします。

## 【2024年度活動計画】 広報部会長

2024年度も引き続き継続して、改善に努めます。そのための失敗を恐れることなく常に新しいコンテンツを試行していきます。

ホームページは一般閲覧者と会員のための2本柱で情報発信に努めてまいります。

ホームページは会員すべての利益に資するツールでなければなりません。一人でも要望があれば新しいコンテンツを取り上げていく所存です。すべての会員の利益に資する運営を心がけます。

それらに加えて従来からの

1. 一般の人が見て分かりやすく、イベント参加したくなるようなホームページ
2. FIT会員にとってより興味深い内容の記事を掲載
3. SNSと連携して情報発信する。

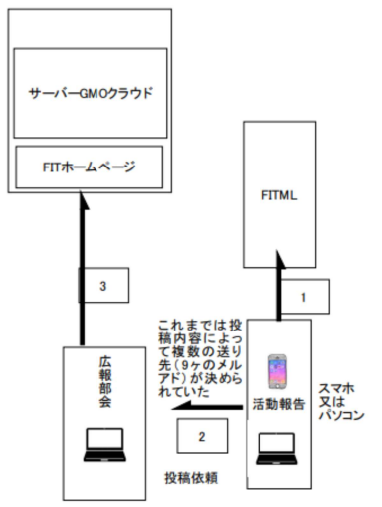
等があり、実現方式を模索しています。また会員へのアンケート結果も踏まえて、2024年度も閲覧者が読みたくなるような魅力あるホームページ目指して邁進する所存です。

ホームページは皆様の投稿により成り立っています。投稿がなければ魅力的なホームページにはなりません。会員の皆様と一緒に魅力あるホームページを作り上げていきたいと考えています。

今後とも会員の皆様のご協力をお願い致します。

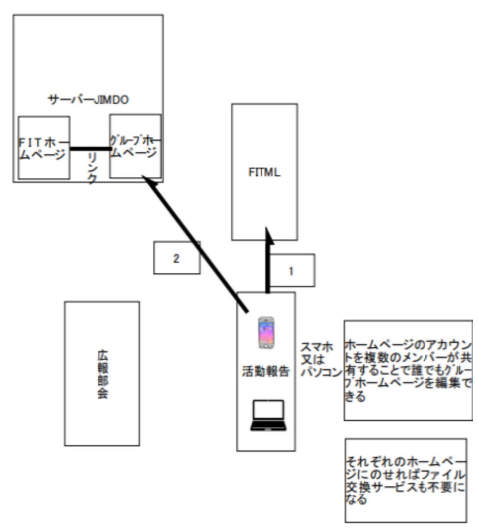


旧システムでのHP掲載作業の流れ



- 1.実施者はFITMLで活動報告をする
- 2.実施者は広報部会にホームページに載せるよう依頼する
- 3.広報部会はホームページビルダーソフト上でHTML (暗号のような難解な言語) 作業をする

新システムでのHP掲載作業の流れ



- 旧システムでの「3」の作業がなくなる
- 1.2.の作業は同時にできる (作業量が減少する)
  - メールの文書をそのままグループホームページに簡単な作業でアップする
  - 2.の作業をすることで自動的にFITのホームページからも載せた記事が見られる

## 研修部会

### 【2023年度活動報告】 研修部会長

2023年度の研修は、野外研修、木の日研修、草木染指導者研修、実践・森づくり技術講座等を実施しました。

2023年度は、15回の野外研修を予定していましたが、1回雨天中止になった以外はすべて実施できました。参加者数を絞って実施し、学名、樹木、野鳥、冬芽、などの基礎的な研修および、地形、火起こし、シダ、クモ、地衣類などの研修を実施しました。

木の日研修(座学)は前年10月に行ったアンケート結果をもとに、6回はリモート、3月の総会時は対面で実施しました。Zoomを利用した研修は内容を録画で見ることができ、仕事のある方、夜に外出するのが困難な方からは大変好評です。2023年度の木の日研修参加者は、延べ294名でした。

年間を通じて、草木染指導者研修は全9回、実践・森づくり技術講座は全6回の研修をすべて(各体験会を含む)実施することができました。

詳しい活動報告は、FIT研修部会ホームページ <https://fit-eknshubukai.jimdofree.com/> をご覧ください。

### 【2024年度活動計画】 研修部会長

2024年度も新人の方向けの入門研修から専門的な内容の研修まで、色々と計画



しております(別表参照)。まだ、日程が決まっていない計画がたくさんありますが、順次決定していきます。決まり次第、ホームページの研修計画の表に入力しますので、時々チェックしていただければと思います。昨年10月にアンケートでご希望いただいた研修も、いろいろと準備しております。

引き続き2024年度の木の日研修は、アンケートの結果を反映しリモートで実施する予定です。(3月16日の総会時の研修は、対面で行います。)

今年度の木の日研修の運営は、森林インストラクター試験に合格して2年目になるFITの森守会の方々が担当します。皆さんやる気に満ちていて、頼もしい限りです。

草木染、森づくりはもちろん、かなりの野外、木の日研修でFITの会員の方々が講師を務めてくださっています。それだけの専門知識や技術のある方がFITにはたくさんいらっしゃいます。

ともに学び、ともに体験することで、お互いを高め合い、森林インストラクターとして成長していきましょう!

「草木染指導者研修」3/11(月)草木染入門 原則第2火曜日 年8回

「実践・森づくり技術講座」3/2(土)3/3(日)森づくり体験 原則第3土曜日 年5回

別表 2024年度 研修計画(前期予定)

講師敬称略

| 月 | 野外研修  | 木の日研修   |
|---|---|---|
| 3 | 2日(土)<br>「インストラクション入門講座」<br>場所:小石川植物園<br>講師:石井誠治(FIT)<br>定員:25名   | 16日(土)12:30-14:00 総会時<br>テーマ「道草さんぽの楽しみ方」<br>講師:多田多恵子(植物生態学者)<br>場所:林友ビル6F、対面    |
| 4 | 日付:未定<br>「春の山野草～スマイレを中心に～」<br>場所:未定<br>講師:中西由美子(FIT)他<br>定員:未定<br><br>10日(水)<br>「野鳥観察入門」<br>場所:日影沢～一丁平～高尾山<br>講師:吉原邦男、榎本衛(FIT)<br>定員:未定<br><br>日付:27日(土)<br>「季節の花観察研修」<br>場所:昭和記念公園(ゆめひろば)<br>講師:臼井治子(FIT)他<br>定員:15名 | 4日(木)<br>安全研修『「安全対策の手引き」の使い方・他』<br>講師:町頭(オフィステラ)、入江克昌(FIT)<br>場所:リモート<br>定員:99名 |
| 5 | 11日(土)<br>「新宿御苑樹木観察入門」<br>場所:新宿御苑<br>講師:小菅智彦(FIT)<br>定員:15名<br><br>21日(火)<br>「学名から迫る植物の素顔」<br>場所:小石川植物園<br>講師:横山茂(FIT)<br>定員:15名  | 休会  |
| 6 | 日付:未定<br>「小泉現地ゼミ IV」<br>場所:未定<br>講師:小泉武栄(学芸大名誉教授)<br>定員:20名   | 6日(木)頃<br>「未定」<br>講師:未定<br>場所:リモート<br>定員:99名                                    |
| 7 | 日付:未定<br>「高山植物入門」<br>講師:飯田有貴夫、高橋喜蔵(FIT)<br>場所:未定<br><br>日付:未定<br>「キノコ観察入門」<br>場所:未定<br>講師:根田仁<br>定員:未定  | 休会  |
| 8 | 「磯の生物」  | 1日(木)頃<br>「未定」<br>講師:未定<br>場所:リモート<br>定員:99名                                    |

## <友の会運営部会>

### 【2023年度活動報告】

### 友の会運営部会長

長年続きました新型コロナウイルス感染症も「5類感染症」と位置付けられ、多少の安堵感はあるものの感染防止に配慮し1講座は中止となりましたが、11回の講座を無事終了することができました。

また、東京都・近隣の森林インストラクター合格者に当会も貢献できたことは、運営スタッフともども今後の運営の励みとなりました。

【令和5年度合格 友の会会員：5名、一般受講：3名、全国：141名】

オリエンテーション、4科目の講義と演習、模擬試験を含め9回、一次試験後は資格取得後の活動に役立つ様に、3分野（森林作業、自然観察、野外活動）の基礎研修を計画しました。



森林作業は、天候により中止となりましたが森林作業の基本や安全な道具の使い方等の習得を計画、自然観察では実技試験を想定した一人5分の植物解説の二次試験対策・活動時の実習体験、野外活動では火燧し作業と飯盒炊爨を体験し、それぞれの作業で指導する基礎を習得しました。



資格取得支援講座の講師と運営スタッフの皆さんのご指導・ご協力並び、FIT会員の皆さまのご支援のお陰で、今年度も無事に運営できました。

感謝申し上げます。

来期事務局は氏家 清高さんにバトンタッチと新しい「FIT友の会」の運営となります。FIT会員の皆さまも運営スタッフの立場で温かく・広くご支援・ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

3年間ありがとうございました。

### 【2024年度活動計画】

### 友の会運営部会長

今年度も森林インストラクターやFITの活動に関心がある方と、森林インストラクターの資格取得を目指す方を対象に友の会の活動を実施します。

友の会会員になるとFITメーリングリストに登録され、FIT会員と同等の情報が提供されますので、会員限定の研修会等に各自で参加することができます。

年度前半(3月～8月)は資格取得支援講座(9回)で、森林インストラクター養成講習テキストを使用した4科目の概要解説、過去問題を利用した演習、テキスト内容を公園内で確認する実習などを実施します。8月には模擬試験を行い、一人でも多くの会員が資格取得できるように取り組みます。

年度後半(10月～12月)は森林インストラクター資格取得後の活動に役立つ様に、「森林作業」、「自然観察」、「野外活動」の分野で基礎研修(3回)を実施します。

また、今年度もFIT会員の皆様に「友の会」の参加を集い、皆様の「FIT友の会」活動・講座内容を理解していただく機会を設けます。

FIT会員の皆様へのお願いです。

2024年度「FIT友の会」会員の募集を1月21日から開始いたしました(詳しくは「FIT友の会」ホームページをご覧ください)。そこで、皆様の知人や友人の中で、森林や自然に興味がある方、FITの活動に関心がある方、森林インストラクターの資格取得を目指す方がいらっしゃいましたら、「FIT友の会」をご紹介ください。

## 事業部会

### 【2023年度活動報告】

### 事業部会長

2023年度は各イベントを通してFITに対する環境教育やSDGSに関する社会的な期待が高まっていると感じました。毎月1回の定例会議(林の日)では活発な意見交換を行いながら当初計画の案件をほとんど実施する事ができました。実施イベントは下表の通りです。特にネイチャークラフト体験では子ども達が体験する様子をお父さん・お母さんが見守る姿はほほ笑ましく、私たちの活動の原点を見る思いです。このように、FIT会員の活躍・活動は社会から必要とされている事をさらに実感した1年でもありました。

\* 参加人数(延べ人数)は集計上若干の差異があります。

| イベント名称               | 実施件(回)数              | 一般参加者数 | スタッフ数<br>(FIT参加者) | コメント  |
|----------------------|----------------------|--------|-------------------|---|
| 高尾森林ふれあい推進事業(協定イベント) | 21回                  | 482名   | 137名              | 親子観察会 2回を含む<br>中止 2件<br>体験参加者 6名                  |
| 田園調布学園土曜プログラム        | 8回                   | 158名   | 29名               | 土曜講座(午前約3時間)                                      |
| ネイチャークラフト体験          |                      |        |                   |   |
| ・浅川市民センター祭り          | 119件<br>子供のクラフト体験の数  |        | 11名               | 3/5(日)浅川市民センター<br>訪問者 約1,500名(両親等)                |
| ・すみだこどもまつり           | 1467件<br>子供のクラフト体験の数 |        | 47名               | 9/30(土)、10/1(日)<br>錦糸公園・総合体育館<br>訪問者 約3,000名(両親等) |
| ・八王子いちよう祭り           | 151件<br>子供のクラフト体験の数  |        | 11名               | 11/18(土)、11/19(日)<br>西浅川児童公園                      |
| 高尾山GC作戦              | 10回                  | 269名   | 91名<br>(89名)      | 中止 2回   |
| 低山はいかい(2024年2月を除く)   | 10回                  | ——     | (178名)            | FIT会員の親睦山歩き                                       |
| 講師派遣                 | 10件                  | 651名   | 81名               | 小学校 2校 高校 2校<br>生徒の自然体験を応援<br>大人対象 6件             |

---

\* 実施回数 : 62回 \* 一般参加者数 : 延 3,297名 \* スタッフ数 : 延 407名 \* FIT参加者 : 延 267名

### 【2024年度活動計画】

### 事業部会長

事業部会の役割は、“FIT会員が参加してお互いに交流する機会をつくること”です。2024年度も既存のイベントを確実に実施し、また新しいイベントを検討し実現に結び付けていきます。毎月1回の定例会議(林の日)は、FITや事業部会の情報や連絡事項の確認、各イベント担当者の現状報告や相談に加えて、事業部会の役割を充実させるための大切な議論の場と捉え、経験・入会年度・年齢・性別を超えて、自由闊達な意見交換を行います。更に4-Restsメールや事業部会MLを活用して、イベントスタッフやふれあい推進事業の体験参加の募集、定例会議(林の日)への参加呼びなどを行い、より多くの会員の方が事業部会の運営や実施するイベントに関わる機会を、積極的に増やしていきたいと考えています。各イベントの2024年度の活動計画の概要は以下の通りです。

- 1) ふれあい推進事業 : 22イベント(含む親子3)を計画、うち新規が1、新主幹事によるもの9。
- 2) 田園調布学園 : 8講座を計画、うち新規が1(木の実を使って作ってみよう! ネイチャクラフト)。
- 3) ネイチャクラフト : 5~6イベントへの出店を予定。4月に新入会員向け講習会を開催。
- 4) 高尾山GC作戦 : 7コースで、熱中症予防のため8月を除き10回実施。
- 5) 低山はいかい : 毎月実施し会員の親睦をはかる。
- 6) 講師派遣 : 昨年度実施10件の継続を軸に展開。

以上



## FIT新人が聞く! シリーズ 第2弾 私の好きな本～森林インストラクター必読～

### 1) 臼井治子さん

2024(令和6)年1月20日  
立川にて(萩原・西出)

2010(平成22)年に森林インストラクターになる前から、「緑花文化士」としても活躍されていた臼井治子さん。2022(令和4)年、2023(令和5)年と2年連続して参加した「冬芽研修」で講師をしていただき、冬芽に留まらないあまりの博識と面白さに、会員の間からは「すごいな～」「なんでそんなことまで知っているんだろう～」と感嘆な声が聞かれました。冬芽以上に臼井さんに興味が湧いていたところ、『Forest通信』を口実にたっぷりお話を伺うことができました。取材は、スーツケースいっぱい、びっくりするほど重い本を詰め込んで



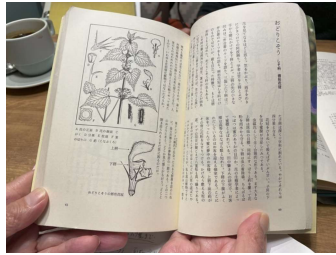
2024(令和6)年1月20日 登場して下さったことに仰天するところから始まりました。  
スーツケースから次々と取り出して くれるさまはマジックのよう。

#### ■ 牧野富太郎先生の次に尊敬する人は？

お好きな図鑑をご紹介します。なぜその図鑑が好きなのですか？

長田武正先生の本をご紹介します。

- ・『小事典・野草の手帖—植物分類への道しるべ(ブルーボックス)』、講談社、1989
- ・<上記の本とほぼ同じ内容>『野草の自然史—植物分類へのみちしるべ』、講談社、1979
- ・『検索入門 野草図鑑(1)～(8)』、保育社、1984
- ・『日本帰化植物図鑑』、北隆館、1979



長田先生は、どういう植物なのか？ 特色は何か？ その植物の一番の特徴を、要点をとらえて、説明されているんですよ。何を説明しようかな？ と思うときに読むと、はっとさせられます。例えば、オドリコソウだったら、シソ科の唇形花冠

という特徴について、なるべく簡単な言葉で分かりやすい解説がされています。

長田先生の本が好きになったきっかけは何かありますか？

大学生の時、「日野の自然を守る会」に入って植生調査をお手伝いしていたことがあったのですが、調査の中心を担っていらっしゃった富士堯先生が長田先生に傾倒されていて知りました。その時はすごさが分からなかったのですが、自分も植物の説明をするようになって、難しいことをやさしく解説されるすごさが段々分かるようになりましたね。残念ながら

---

ら、お目にかかったことはありませんが。

他にもおすすめの図鑑もありますか？

平凡社の『日本の野生植物』の木本編2冊と草本編3冊は手元に置いています。これは検索表がしっかりしているため他の図鑑とともに活用しています。

あと、明治神宮の造園などを設計された上原敬二先生のこちらの図鑑は、父に譲り受けました。もう絶版になっていて、国会図書館でも貸し出しはしていないそうです。

・上原敬二『樹木大図説1-3+索引』、有明書房、1919-1921

博物学的に色々な情報を網羅していて、1961(昭和36)年発行の旧カナ遣いの本で日本各地や朝鮮半島での植物の呼び方なども載っており、面白いですよ。メタセコイア発見の経緯なども詳しく書かれています。

父が中学の理数科の教員で自然観察が好きだったので、青梅出身の私も小さい頃から胴乱を持って、植物採集に連れられて、さく葉標本(押し葉標本)を作ったりしていました。家の庭にはバイモユリ、サクラソウ、ニリンソウなどが咲いていて、自然に囲まれた環境でした。

ぼおーと『牧野日本植物図鑑』を見ているような子でしたが、小学校低学年から富士山や雲取山にも連れて行ってもらいました。その頃の雲取山にはヤナギランや様々な花々が咲き乱れ、アサギマダラがたくさん飛んでいたのを覚えています。夏休みの宿題も、毎回さく葉標本なので、毎年同じ宿題を使い回している、なんて、同級生にからかわれたりしました(笑)。

今までご紹介いただいた図鑑は、どれも絵ですが、図鑑は、写真より絵のほうがよいと思われませんか？

それぞれよいところがあると思います。図鑑の絵は大きく、植物の特徴を捉えていて、分かりやすいですね。また、この絵本は、植物全体の特徴もよく捉えていますし、どんな場所に生えているか植生も分かりやすく描かれています。参加者の皆さんにお見せすることもありますよ。

・古矢一穂(著)、高森登志夫(絵)『野の草花(福音館の科学シリーズ)』、福音館、1982

山と溪谷社の『樹に咲く花』シリーズは写真ですが、とにかく茂木透さんが撮っている写真がすごい！15年かけて、樹木を観察・撮影し続けて、この図鑑を仕上げたそうですよ。使い込みすぎてボロボロになって、もう1セット、買い足しました。

この『植物分類表』という本も、読みにくそうですね。

新しく出る図鑑などは、新エングレー植物分類体系からAPG分類体系に変わってきているため、解説する場合は新しいものでお話ししています。2003年のAPG分類体系2に準拠しているから、少し古いけれど、使っています。

---

・大場秀章、NPO法人栽培植物分類名称研究所（編集協力）『植物分類表』、アボック社、2009

## ■ テーマは「植物と食」

インストラクターとして、特に工夫していることはありますか？

「植物と食」をテーマにしています。生活に密着しているから、皆さん、興味を持ってくださるし、私自身も作ることと食べることが好きなんですよね。でも、食べられない植物もあるから、「これは良く知っている人に聞いてくださいね」「これは毒ですよ」といったことも、きちんと話すようにしています。ニラと毒性のあるスイセンを間違える人もいるというから、森林インストラクターは気を付けないといけませんね。

説明を考えるときに、絵本もおすすめです。以前他の場所でこんにやくをテーマに話したときは、こういう本も参考にしました。うちの庭では、こんにやくが紫色の花を咲かせていますが、こんにやく農家は花が咲く前にこんにやく玉を掘り上げるので、普段花を見ることはないんですよ。

・たかはたひろゆき（編集）、やまざきかつみ（イラスト）『こんにやくの絵本（つくってあそぼう）』、農山漁村文化協会、2007

・うちだしゅうじ（編集）、さくらいさとみ（イラスト）『コンニャクの絵本（そだててあそぼう）』、農山漁村文化協会、2000

農文協の「つくってあそぼう」「そだててあそぼう」シリーズは、本当によくできていますよ。2013(平成25)年から2017(平成29)年まで発行されていた『のらのら』という、こども農業雑誌も面白かった。

そうそう、ヤマユリのゆり根から作るきんとんもおいしいのよね～。

<取材者(記):ここらしばし、おいしい植物のお話を伺い、うっとりする。>



本は図書館で借りたりせず、ご自分で買う派なんですか？

私、コレクターなのよ(笑)。今は目が悪くなって、あまり読まなくなったけど、昔は池袋のジュンク堂書店が好きで大量に買って家に送ったりしていたのよ。色々コレクションしていて、一時は果実酒を100種類ぐらい作っていたし、今は、はちみつのコレクションをしているの！伊豆のカラスザンショウのはちみつなんていう珍しいのもあるし、クマザサのはちみつはデパートで見つけたときに2つ買ってあげばよかったわ(笑)。

## ■ いかに興味を持ってもらって、自然を大切にしてもらおうか？

高尾山 Green Clean 作戦で3年間活動されていたということですが、その時に特に意識していたことはありますか？



いかに楽しく、いかに興味を持ってもらって、1つでも植物を覚えてもらい大切にしてもらうかを意識していました。盛口満さん、こと、ゲッチョ先生は、ドングリ研究会で一度お話を聞きしたことがあるのですが、本も切り口が面白くて、植物だけでなく、広い視野で植物の周りの環境を捉えているのが好きですね。



・盛口満 (著)『雑草が面白い—その名前の覚え方』、新潮社、2015

・盛口満 (著)『シダの扉—めくるめく葉めくりの世界』、八坂書房、2012

あとは、森林インストラクターは自然保護の観点が抜けてはいけないと思っています。珍

しい植物だからと教えたくなりがちだけど、本当に珍しいものは情報を広めないようにしたり、狭いところに大勢の人を案内することで自然破壊が起こることを念頭に置いてほしいなと思っています。

植生の変化を記録していくことも大切なことだと考えています。高尾山では、先日1号路でシカを見ました。鹿が入ってくると、この4-5年で植生ががらりと変わってしまうのではないかと心配ですね。

## ■ もう一つのテーマは「植物と歴史」

他にもどんなジャンルの本が好きですか？

ハーブやスパイスにはずっと興味があります。スパイスを巡る西洋の歴史も面白いですね。



・山田 憲太郎 (著)『香料—日本のにおい (ものと人間の文化史 27)』、法政大学出版局、1978

・山田 憲太郎 (著)『香談—東と西』、法政大学出版局、2002

・C.J.S. トンプソン (著)、駒崎 雄司 (翻訳)、『香料文化誌—香りの謎と魅力』、八坂書房、2010

・北野 佐久子 (編集)『基本 ハーブの事典』、東京堂出版、2005

公園緑地管理財団が平成12(2000)年に「緑・花文化の知識認定試験」をはじめ、3年連続で特級をとり、2003(平成15)年に第3回「緑花文化士」になりました。後から聞いたら、FITの高橋喜蔵さんも同期でした。その後、昭和記念公園の花みどり文化センターで、初めて開催した講座がハーブで、田園調布学園でもハーブの講座を担当していたりしました。

海外の植物にも、興味をお持ちなんですか？

ブルガリアで朝摘むダマスク・ローズやチョウジの原産地のインドネシアのモルッカ島など興味はありますが、日本のものをちゃんと見たい・知りたいと思っています。日本の植物の

---

歴史を知るという意味では、こういう本もおすすめです。

- ・大場秀章『江戸の植物学』、東京大学出版会、1997
- ・湯浅浩史『植物と行事—その由来を推理する(朝日選書)』、朝日新聞、1993
- ・鷺谷いづみ、『サクラソウの目—繁殖と保全の生態学』、地人書館、2006

西洋では、園芸は王族や貴族の文化として発展したけど、日本では、江戸時代に庶民が園芸に親しんでいたのだから、すごいことだと思います。フクジュソウやナンテン、サクラソウ、アサガオ、オモトなど江戸時代にたくさんの品種ができたし、それらを植えるための鉢まで進化したんだから。私もうちでマニアック山野草ガーデンに挑戦しています。

### ■ 新しく森林インストラクターになった方にアドバイスはありますか？

植物に関していうと、自分で年間を通してちゃんと見るのが大事かなと思います。知識だけ詰め込んでも仕方ないので、どんなところに生えているのか？どんな生活史を辿っているのか？自分の目で見て、理解すること。植物は季節によってさまざまな表情を見せてくれます。ネットで調べたことはソースが同じで、説得力が弱いことがあります。

あとは、どんなことでも興味をもって、見たり・読んだりすることですよね。好きなものは身につきます。本でも、何でも、関係ないことはなくて、ポケットはいっぱい持っていたほうがよいと思います。万葉集や小説にも植物は出てきます。でも実際に話せるのは、100のうち20や30だけど。参加者には楽しく興味を持ってもらうことが大切です。

最近も、クワの木についている白い虫はなんだろうと思って調べたらクワコというカイコの原種だったり、安曇野市にある天蚕センターをのぞいたらヤマユガから作った製品が置いてあって皆さんに見せられるなと思って買ったりしました。

FITの色々なイベントに出れば、仲間もできるし、知識も吸収できると思いますよ。

### ■ 聞きたいことは尽きないですが、最後に、本を読むのはどんな時ですか？

寝る前にお酒を少し飲みながら。枕元には本が山積みになっていて大変なことになっています(笑)。そうそう、スイカズラの花を漬けたお酒はおいしいわよ！



イラスト:鈴木歩

.....

#### 〈編集後記〉

・自称、植物オタクの臼井さんのポケットの多さと深さ、サービス精神、笑顔に圧倒されました。先輩に失礼ながら、多田多恵子先生の植物愛とコレクション癖、登山家で肝っ玉母さんだった田部井淳子さんのパワーとキュートさが掛け合わさったような方だなと思いました。(西出記)

立川のルミネで待ち合わせた臼井さんは、上品な姿でスーツケースを片手に持っておられました。マスク姿なので旅行者かなと思っていたら、「萩原さん」と声を掛けられビックリ。さらにスーツケースを尋ねたところ、「いろんな本を持ってきたんですよ。」と聞いてまたビックリ。臼井さんの話を聞き

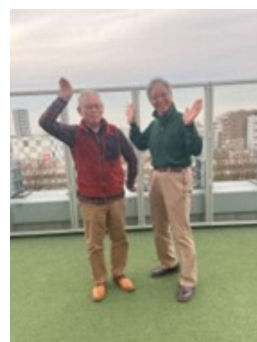
始めると、次から次に貴重な本が登場し、本当に幅広くいろんなことを学んでこられたんだなと実感。また、お話しされている時の臼井さんの姿は、パワフルで輝いていて、同時に植物を愛する気持ちがひしひしと伝わってきました。時々「もう年だから・・・」と言われていましたが、まだまだお元気で、これからもご活躍してほしいです。そして私たち後輩にも指導していただきたいと思いました。(萩原記)

## 2)原島幹典さん

2024(令和6)年2月14日  
国分寺にて(立川・西出)

昨年から、鳩ノ巣やパウロで森林施業に参加させてもらっていますが、技術も知恵も修行中の身で、迷いもあります。ヒントが欲しい時に、山主で、森林ボランティア指導者でもある、岐阜県立森林文化アカデミーの元教授の原島幹典さんに直接お話を伺うことができました。「おすすめの本は」と直接尋ね、Forest通信を編集する機会をいただいたのでした。

FITの大先輩の原島さんには、いつかお話を伺いたいと憧れていました。大先輩は年配の方と思っていたら、なんと同い年生まれ。少し、気持ちが楽になって話しやすくなりました。本の話の前に、様々な現場を歩いてきた、軽快なフットワークには驚かされました。



2024(令和6)年2月14日  
“木のポーズ”のリクエストに応じてくださる  
期せずして同じ年のお2人

.....  
■早速ですが、奥多摩でどのように林業・森林に関係するお仕事をされてきたのかお聞かせください。

私の家は、代々、奥多摩町で商店を営んでおり、曾祖父の時代に手に入れた林地を今も所有しています。実際にどの時代に山林を入手したのか分かりませんが、墓石の立派さから推測すると曾祖父かその前あたりから3代くらいは羽振りが良かったように見えます(笑)。祖父や父も、山主として材木屋さんが「売ってくれ」と来るので木を売っていたんですが、伐採後の山には、自分たちで植林して下刈り、枝打ち、までは人を雇って自力で管理していたので、一般的には林業経営していたというべきなのでしょうね。

昔は、集落ごとに製材所が1軒はあるほど造林の需要があったわけです。森林組合も現在は西多摩郡日の出町にある東京都森林組合一つに集約されていますが、各市町村にありました。その頃は伐採だけでなく、植林・下刈りまでやる条件で木を販売することもあったようですが、当家では山仕事専門の人を数名雇用していたので、自力で育林していました。現在では樹齢50-60年のスギ・ヒノキ林になっています。

森林とはさまざまな形で関わってきました。東京農業大学の林学科4年生の時に、林業の実学を学びたいと京都の北山に1年間住み込みで修行しました。卒業し実家で林業経営に携わった後、サラリーマンをやり10年を過ぎた頃に父が亡くなり、退職して父の会社を引き継ぎました。ちょうど森の持っているさまざまな要素をサービス業として展開できな

いかという問題意識を持ち始めていました。少し前に「東京都 奥多摩都民の森」の事業が立ち上がっていて、会社として森づくりの体験指導を受託しました。この事業には今も携わっています。

■ 森林インストラクターを目指したきっかけはあるのですか？

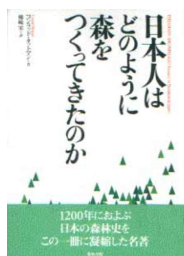
1995年(平成7年)に森林インストラクターになりました。知識をつけ、ネットワークづくりをする上でとても有効でした。1990年代は、森づくりフォーラム(2000年(平成12年)よりNPO法人化)の前進となる連絡協議会が設立され、森林ボランティアの活動が大きく広がった時代でした。樹齢10年ぐらいの森が多く、手入れが遅れていた植林地での下刈りの需要が多かったことも、拡大した一因だと思います。私も森林ボランティアの方々と多く知り合い、新しい勢いを感じた時期でした。

■ 2002(平成14)年発行『Forest通信』第21号の特集「大自然塾」で、行政主導の森林ボランティア活動に懸念を表明されていましたが、当時、どのような懸念をお持ちだったのですか？

ボランティアというのは、本来、行政が敷いたレールに乗っかるのではなく、民間ならではの新しい発想やニーズから生まれ、次の活動を生み出していくべきものだと思います。当時は、行政が、安全に対するリスクマネジメントの意識も低いまま、個人のボランティアを利用して実績づくりをしているのではないか、こちら行政のレールに乗っかるだけでよいのかという懸念がありました。また、ボランティア側に対しても、社会的に認知され行政からも評価されたことで、ある種の驕りを感じた点もありました。

■ 奥多摩で会社を営んでいる中、どのような経緯で岐阜県立森林文化アカデミー(以下、森林文化アカデミー)の先生として働くことになったのですか？

創立時から森林文化アカデミーの学長をされていた熊崎実先生と知り合い、熊崎先生の紹介を受けて47歳の時に教員になりました。県職員という安定した職は3人の子育て中だった身には魅力的に感じ、家族会議を開いて決めました(笑)。何年できるかわからないと赴任しましたが、結果的には定年まで13年間も務めたので不思議です。



■ キャリアのお話に引き込まれてしまいましたが、今日の本題である原島さんのお好きな本を教えてくださいませんか？

ぱっと思いついたのは、熊崎先生が翻訳されているコンラッド・タットマンの『日本人はどのように森をつくってきたのか』です。日本に豊かな森林が残ったのはなぜか？古代から徳川末期までの森林利用についての歴史を描き、日本人・日本社会と森との関係がよく分かります。

■ 森林文化アカデミーで教員をされていた時期に、特に印象に残った本はありますか？

森林文化アカデミーは、高校卒業者と22歳以上の大学卒業者を対象としたコースで、カリキュラムが別れていました。私は高卒者向けには林業の基礎(学科・実習)、大卒者向けには主に地域振興を目的とした森林利用について教えていました。





その中で、特に民俗学者の宮本常一さんの著作は好きでした。簡単に紹介しますね。

『別冊太陽』「宮本常一「忘れられた日本人」を訪ねて」

『現代思想』2011年11月臨時増刊号：「宮本常一 生活へのまなざし」

また、洪澤栄一の曾孫にあたる洪澤寿一さんの『叡智が失われる前に』には強く影響を受けました。この方は、樹木・環境ネットワーク協会の元理事長、共存の森ネットワークの理事長をされているのですが、「聞き書き甲子園」という活動をしています。毎年、全国の高校生100人が「森の名人」をたずねて聞き書きして記録する活動で素晴らしいなと思っています。ちょうど私が岐阜で暮らした15年ぐらい前には、そういった「森の名人」にフィールドで会えたんですよね。団塊の世代の親ぐらいまでは、日本の農山村の文化が受け継がれていましたが、今はどんどん失われています。



もう一つ。こちらは「東京の林業家と語る会」や「浜仲間の会」の代表で、東京の森林ボランティアをけん引してきた羽鳥孝明さんが苦労されて発行までこぎつけた貴重な記録です。是非皆さんにも読んでいただきたいです。東京の林業家と語る会編「聞き書き 山の親父のひとりごと 1・2・3」、(株)日本林業調査会



■ 小説など、他のジャンルの本についてはいかがですか？

内山節さん、梅原武さん、山折哲雄さんなど哲学者や歴史家の著作も多くの発見をもたらしてくれました。自分たちの世代が受け継げなかった知恵を残してくれるありがたさと寂

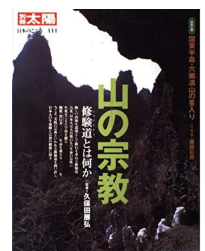
しさを感じます。

内山節さんは、森づくりフォーラムを通して、肉声で講演を聞き感銘を受けました。自ら、群馬県上野村と東京の二地域居住を実践されていますよね。日本の農山村文化の構造や精神的土壌を言葉にしてもらえて、腹落ちすることが多いです。『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』なんて、本当に面白かったですね。



また、山村文化のルーツをたどると必ず修験の話が出てくることに気付き、興味を持つようになりました。

『別冊太陽』久保田展弘監修「山の宗教 修験道とは何か」



■ 本に限らず、今、特に気になっている領域はありますか？

自然を循環利用する日本型の農山村の知恵、それが生かされる場としての森林をどう継承していくか、ずっと考えています。個人の山林所有者がその責任を負うことは無理だということが分かっているので、地域の林業事業体（森林組合など）が所有権とは別に管理していく形をとらざるを得ないだろうと思っています。実態に即せば、森林は「公共物」ということ。国に頼らない自伐林家という形もありますが、今の材木価格を考えると専業としては厳しいと思います。

そうやって公の管理に移っていく中で、隙間産業が生まれ、90年代の森林ボランティアブームのような、新しいムーブメントが生まれるかもしれません。山を所有したい人は今が買い時ですよ(笑)。個人所有ではなくグループで利用できる市民農園のようなビジネスモデルも考えられます。従来の林業とは別に、新しい形で地域ごとの森づくりを学び楽しむ土壌が整いつつあるなと感じています。

### ■ 森林インストラクターへの期待やアドバイスはありますか？



農山村の元々の住民より、都会の人のほうが未発掘の知恵を引き出し語り継いだり、アレンジしてサービスを提供しやすいのではないかと思います。そういう観点で森林インストラクターが活躍できる余地も大きいのではないのでしょうか？例えば、初めて農山村に来た人にも魅力を分かりやすく伝えられる人、地域の植物と人の関わりが見える解説ができる人が必要です。ある集落の植物やその植物にまつわることは全部知っている森林インストラクターなんて面白いと思いませんか？足しげく通えば地域の方も受け入れてくれますよ。

2024(令和6)年2月14日  
国分寺の駅ビルに入っている「カフェローカル」にて。  
シャツのチェックとソファのチェック  
が偶然一致

#### ..... 〈編集後記〉

・プラス思考の明るさと昭和50年代の学生気質(=身体でやってみる)を今でも持っているところに魅力を感じました。フットワークの良さの秘訣はその辺りでしょうか。お願いした時間内でインタビューは終わりましたが、「これからの林業の形態は？」「サービス産業化のイメージは？」「理想の森林ボランティアとは？」等々、もっと聞いてみたいです。紹介いただいた本をまず読んで、また、次の機会をお願いしたいなと思いました。例えば、原島さんの林地を訪問させてもらって、森の観方を教えてもらい、今やれること(やるべきこと)を自ら考えるなど……。(立川記)



イラスト:鈴木歩

・森林インストラクターへのヒントがギュッと凝縮された原島さんのお話、あっという間の2時間でした。今、一番気になっている領域として、森林と森林文化の継承を挙げられたことにハッとしました。日本の森林を取り巻く状況は、決して明るい材料ばかりではないけれど、色々な人の力が合わされば、今こそ変革期なのかもしれない、と思わされました。(西出記)

# 令和5年キブシ会の自己紹介



キブシ会の代表・副代表・連絡係の皆さんはこちらです。

代表：松井 紀尚さん

副代表：齋藤 均さん、志村 久寿さん

連絡係：遠山 はな

キブシ会の皆さんにお伺いしました

1)好きな植物や生物・フィールドなど

2)なぜ森林インストラクターになったか？

3)これからどんな活動をしていきたいか？

## ■ 小澤 祐司(おざわゆうじ)、神奈川県

1)登山とキャンプとドングリ

2)仕事と個人の活動のスキルアップを目指しチャレンジしました。

都内に勤務する会社員で、CSR部で気候変動対策や生物多様性保全を担当しています。

個人としては、ネイチャーゲームインストラクターとして「自然への気づき」をテーマにした活動を行っています。

3)現在は神奈川県在住ですが、学生まで八王子で過ごし高尾は第二のホームと思っています！子どものセンスオブワンダー(自然の神秘さや不思議さに目を見張る心)に寄りそう自然案内人になりたいと思っています。



## ■ 小高 野土香(こだかのどか)、東京都

1)野鳥が好きです。

山が好きで、特に北海道の大雪山、道北のサロベツ湿原が好きです。

育児を通して「森のようちえん」に関心を持っています。

2)これまで農業と昆虫食に関わるなかで、現代では自然に触れる機会がなく、自然と切り離された暮らしが当たり前になっていることに違和感を覚え、身近な都市公園でも、特に子どもたちにも自然を親しんでもらえる機会を作りたいと考え取得しました。

3)10歳以下の子ども向けのイベントを、大田区・品川区付近で企画したいと考えています。

大田区は自然関連のイベントがあまり開催されておらず、森のようちえんもありません。NEALとネイチャーゲームリーダーを取得、保育士も取得予定です。活動仲間を探しています。





---

■ 五島 和歌子(ごとうわかこ)、東京都

1)秩父多摩甲斐国立公園

2)好きなことでボランティアをして世の中に恩返ししていきたいと思ったからです。好きなことは森の中にいることです。

3)森好きな人と繋がり、一緒に森林再生の活動をしていきたいです。あと10年くらいは公園よりも山行の中で自然を探索する活動に携わりたいです。

---

■ 近藤 昭久(こんどうあきひさ)、東京都

---

■ 齋藤 均(さいとうひとし)、東京都

1)樹木観察に興味があります。山に登るようになってから樹木のことをもっと知りたいと思うようになりました。樹木の特徴や見分け方など一般の人に伝えられるよう森林や樹木の知識を深めています。

2)FIT主催の自然観察会に何度か参加するうちに森林インストラクター資格に興味を持ちました。試験範囲が広く苦手な記述式問題が多いため受験を躊躇していましたが、定年退職後で時間に余裕ができたため受験しました。

3)森林ふれあい推進イベントの親子自然観察会をスタッフとして担当します。親子自然観察会などの研修プログラムをとおしてイベント運営ルールや参加者とのコミュニケーション技術を学びたいと思います。研修会や観察会などの活動に参加していくなかで、自身の方向性や好きなフィールドを見つけたいと考えています。

---

■ 坂井 晋平(さかいしんぺい)、東京都

皆さま初めまして。坂井晋平と申します。

普段は事務職の会社員ですが、週末は山歩きを趣味にしております。ある時登山ガイドの方が詳しく植物を解説してくれた際、見えている自然の解像度がグンとあがる感覚を知り、もっと自然や森林を体系的に学びたく森林インストラクターを目指しました。新年観察会でFITの先輩方の自然観察の知識・技術の豊富さを目の当たりにし、これから自分も積極的に学び森の豊かさを伝えられるようになりたいと思います。また試験勉強を通して、林業や、森林を利用した暮らし・文化に興味を広がったため、森林施業や自然素材利用の活動も積極的に参加したく思います。これからどうぞよろしく願いいたします。



■ 酒井 美江(さかいみえ)、埼玉県

1)巨木や植生遷移の観察が好きで日本各地を旅しています。植物の写真を撮ったり絵を描いたりしています。エケベリア属を中心にベンケイソウ科の多肉植物をコレクションしています。



2)伊豆大島へ植生遷移の観察に行った時に案内していただいた方との出会いがきっかけでした。私も植物の魅力について人に伝えられるようになりたいと思い森林イン

---

---

トラクターになりました。

3) FITでの活動を通して森の知識と経験を身に付けていきたいと考えています。植物の面白い知識や魅力的なところを伝えられるようにになりたいです。

---

■ 塩澤 啓美(しおざわひろみ)、東京都

1)生まれ育った北海道の大自然が私の原風景です。厳しい寒さと雪に耐え抜いて芽吹く寒冷地の樹木たちに心惹かれます。加えて、実家にはイチヨウ(雄株)の大木があったので、今でも黄葉したイチヨウ並木を見ると制御できないほど胸が躍ります。

2)森林の生態系や林業、土壌環境などを幅広く学びたいと思ったのがきっかけです。独学では偏ってしまう上、目標を持たなければ挫折すると思い、資格取得を目指しました。

3)胸を張って得意ですと言える分野がまだありませんので、これから知識と経験を積み、自信を持ってガイドできる分野を確立していくことが目標です。

---

■ 志村 久寿(しむらひさとし)、東京都

この度、新しくFITに加入しました志村です。これからの若い世代が自然との距離を置いてしまわないように、自然と人との橋渡し役になりたいと思い受験しました。間接的な情報が多く行きかう現代において、自然のフィールドに対してのイメージは「危険」が先行されてしまいがちです。なぜ危険なのか、その中でどう立ち振る舞うべきなのか、これらを直接体験しないまま自然と距離を置いてしまうことは、自然にとっても人にとってもプラスに働くことがないと考えています。森林インストラクターの活動を通して自然と人、人と人の縁をつなげ、それぞれの距離を縮めていきたいと考えています。現在はこれといったスキルや知識はありません。諸先輩方はもちろん、知識や経験豊富な同期からも様々なことを学んでいきたいと思っています。よろしく申し上げます。

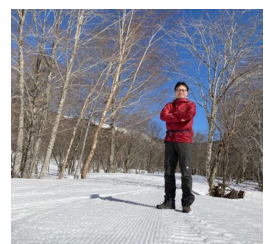
---

■ 関崎 宜史(せきざきのりひと)、東京都

1)欅、白樺、花水木、日光黄菅・等々力溪谷、尾瀬、菅平、東京での新しい活動場所を探索中

2)①趣味の山遊びや野遊びで触れる森林について、学び直すとともに学びの証となると思ったから、②ボランティアを通じて伝える場が増えるなか、資格を有することで説得力が増すと考えたから、③経験と知識豊富なインストラクターに出会い、まだ見ぬ未来の活動の場が広がると信じたから

3)①所属するチームや団体が提供する場を通じ五感を研ぎ澄まし、森林知識や自然体験の学びを深化する、②雑木林や里山の再生、森林保全のプロジェクトに参加することで、生物多様性を守る営みに貢献する、③自然観察やネイチャークラフトから、興味をもつ人々の、未来を担う子どもたちの気づきを支援する



---

## ■ 高木 和彦(たかぎかずひこ)、千葉県

---

### ■ 遠山 はな(とおやまはな)、東京都

1)高尾山周辺。大人になってから訪れた際に、子どものときの思い出が鮮明によみがえり、また原風景とも重なり、懐かしさに包まれました。そんなこともきっかけとなり、裏高尾に移り住んで20年ほどになります。重なった落ち葉の上を歩くときの音、雨のあと、落ち葉から香り立つ匂い、新春の山がパッチワークかモザイクのように色づく様子が特に好きです。



2)科学的知見に基づいて山の生態系に向き合いたかったのだ。

3)目指すは、高尾のレイチェル・カーソン。微妙なバランスの上で成り立っている自然、一度失われたら容易には取り戻せないそこに生きる動植物の尊さを伝えるような活動がしたいです。

---

### ■ 中村 緑(なかむらみどり)、神奈川県

1)木全般好きです、最近ではモチノキなど赤い実をつける木がきれいだなと思ってしています。

2)山が好き歩くうち、何となく植物に興味を持つようになりました。植物にもっと詳しくなるために、活動する場や仲間が欲しかったこと、将来自分も誰かに山の面白さを伝えられたらいいなと思って森林インストラクターを目指しました。

3)まだまだ知識が足りないのので、森林インストラクターの方々にたくさん学びたいと思います。地質や、森づくりにも興味があるのでそのような活動に関わりたいです。よろしく願いいたします。

---

### ■ 松山 亜希(ふなやまあき)、東京都

東京の西のはずれ、高尾に移り住んで約20年になります。

小学校の通学路を流れる小川にはカワセミが生息し、夏にはホタルが飛び交うなど自然豊かな環境で子供たちは育ちました。

それぞれが自然について学ぼうと進路を決めた矢先のコロナ禍。

学び舎へ通うこともままならない日々が続いた時期、久しぶりに親子で高尾山へ登り、植樹やクリーンアップ活動に参加。

活動を通して身近な自然がいかに貴重であるかということのを再認識するとともに、植樹した木の樹種についてなにも知らず「森を見て木を見ず」だったことに気づきました。

子供たちを育ててくれた豊かな自然を次世代へ残していくために、身近な自然について学びたいと思ったのが受験のきっかけです。

これからは木も森も観ながら、地元の高尾山の魅力を伝える活動ができればと思います。

---

## ■ 榎永 幸介(ますなが こうすけ)、熊本県

1)山登りや野鳥の写真撮影が趣味なので、好きな生物はカワセミ、ジョウビタキなどの野鳥と江津湖(熊本市内)の地域猫たち。

自然豊かな阿蘇山一帯(特に根子岳)と、湧水が豊富で、渡り鳥の生息数が多い江津湖が個人の活動のフィールド。



2)学生時代ワンダーフォーゲル部で活動中、子供たち対象のキャンプ引率のバイトをしたことがあり、その時の子供たちの笑顔が記憶に残っており、大自然の中での野外活動のすばらしさを未経験の子供たち等に知って欲しいから。

3)趣味や過去の経験を生かせる「キャンプ」、「野鳥観察」、「昆虫観察」、「水生生物観察」。

企業のCSR支援や災害援助。

---

## ■ 松井 紀尚(まつい としひさ)、東京都

小石川植物園のある文京区で生まれ育ち、エノキの大木に登ったり、ヒキガエルの卵や玉虫を採ったりして遊んでいました。中学の時、山登りサークルの新歓丹沢山行で、タラの芽など山菜を採って山の上で天ぷらにして食べた楽しい思い出があります。学生の時、富山県の植林地で1週間くらい合宿して下刈りをしましたが、就職後は森林インストラクターに関係する活動をしたことはありません。



高山の稜線を、雄大な大自然に抱かれながら歩くのが好きです。木々や草花を、景観の一部として観ているだけではなく、近寄って観察し、名前も覚えたいと思ったのが資格取得の動機です。

森林の動植物の生態、地球の歴史、生物の進化、昔からの人と森の関わり、など興味は尽きません。先輩方のように、森林の面白さ不思議さを、楽しく多面的に伝えられるようになりたいと思います。

---

## ■ 水上 和子(みずかみ かずこ)、東京都

1)生物全般に興味がありますが、知識はまだまだ。勉強中です。

現在は、森林インストラクター受験をきっかけに関心をもった樹木の観察にはまっています。東京生まれの東京育ち。慣れ親しんだ武蔵野の屋敷林や雑木林にやすらぎを覚えます。縁あって、7年位前から長野県東信地域・千曲川上流部の溪畔林で活動しており、東京にはない中山間地の魅力も感じています。

2)ふるさと東京での森活動もそろそろ思い、仲間を求めて受験しました。

3)

- ・子どもや若者の「センス・オブ・ワンダー」を育む活動。
  - ・東京に残されている森や林を守る活動。子ども達の未来に繋げる森づくり。
  - ・東京・長野の2拠点での活動経験を活かし、都市部住民と森をつなげる活動。
-

---

■ 森 和子(もりかずこ)、東京都

1)ロゼットビオラ

2)仲間と一緒に、生き物に関わる活動ができれば楽しいだろうと思ったから。

3)まず、いろいろなイベントに参加して、自分の感性に引っかかるものを増やしたい。

---

■ 森 栄(もりさかえ)、東京都

1)生育地は九州の山村、山野草や野鳥が好きです。この時期2月ですと、林床のセツブンソウや野鳥ミソサザイなんか良いですね。それと、多くの東京都絶滅危惧種、日向ぼっこ中のニホンカナヘビも愛おしくなります。

2)リタイア後は自然豊かな多摩地区に転居し、全く未経験ながら自然管理のNPOを少し手伝うご縁もあり、自然のことを色々知ろうと考え、受験に至りました。

3)将来、例えば自然観察会の合間に野点を取入れ、参加者のリラックス効果を高める活動等も可能ならお手伝いしたいですね。私事、赴任地東北の森林で座して聴いた津軽三味線は爽快でセラピー、40年経ても色褪せません(仕事の記憶は忘却の彼方)。未熟ですが、何卒宜しくお願いします。

---

■ 山崎 伊織(やまさきいおり)、東京都

1)「氷河期からの贈り物」とも言われていて、氷河期のころから生き残ってきた高山植物が好きです。気温が低く風も強い過酷な環境でもけなげに生き抜く、小さな可憐な姿に癒されます。

2)趣味の登山を楽しんでいると、色々な動物、樹木、草花をみかけます。以前はほとんど知識を持っていなかったのですが、所属している山の会に花が好きな人が多く山行の途中で花の名前を教えていただきました。知れば知るほど興味が湧いてきて、ただ山に登るだけではなく自然全体に視野を広げたいと思い、森林インストラクターを目指しました。

3)特定の分野に特化するのではなく、FITの活動を通じて幅広い知識を学ぶことで自然全体の素晴らしさを伝えていける森林インストラクターになりたいです。



**\* 事務局便り**

新型コロナウイルス感染症は、未だ終息していません。引き続き感染防止対策に十分な配慮をお願いいたします。

本号は、3月16日(土)開催の2024年度(令和6年度)FIT総会のご案内および議事資料を掲載しています。皆様、必ず目を通してください。

● 会員情報:1月31日現在会員数355名(含む新入会員20名。)

**お知らせ**

**(1) 2023年度(令和5年度)森林インストラクター合格者およびFIT入会者**

全国で受験申込者331名(昨年度は280名)、合格者141名(昨年度109名)。

東京都在住の合格者は22名。FITへの新入会者は1月末現在20名。

**(2) FIT名簿更新**

FIT会員名簿の次回更新は3月末となります。最新版がFITデータベース(旧HP)に掲載されていますのでご確認いただき、訂正等があれば3月20日ごろまでに事務局あてにご連絡ください。

**(3) 来期会費関係**

別途、会計よりご連絡の通り、2024年度(令和6年度)の会費納入(2024年3月1日~2025年2月末日分)は、今年度に限り4月末日です。

自動払込を申し込んでいる方は、4月30日が引落日となります。

4月29日までに、余裕をもって口座に入金をお願いします。

振込をされる方は、4月30日までに、FIT口座に振込をお願いします。

**(4) 新年イベント**

今年の新年イベントは、1月13日(土)に「新合格者FIT入会説明会」「新年自然観察会」「新年懇親会」が実施されました。

「新合格者FIT入会説明会」場所:国営昭和記念公園 花みどり文化センター

新合格者10名参加。

新合格者同期会の愛称は“キブシの会”となりました。

「新年自然観察会」場所:国営昭和記念公園

参加者102名(内新合格者8名)。

「新年懇親会」場所:立川ベースボール 参加者70名(内新合格者4名)。

幹事の“ニレの会”(令和2年)の皆様、大変お疲れ様でした。そしてありがとうございました。

**FITクロスワードパズル**

|    |    |    |    |    |   |
|----|----|----|----|----|---|
| 1  | 2  | 3  |    | 4  | 5 |
| 6  |    |    |    | 7  |   |
| 8  |    |    | 9  |    |   |
| 10 |    | 11 |    | 12 |   |
|    | 13 |    | 14 |    |   |
| 15 |    |    |    |    |   |

**タテのカギ**

- 1.モンシロチョウはさなぎで〇〇〇〇
- 2.この幼虫は皆さんよくご存知です
- 3.血液が止まるとこうなる
- 4.南方系の樹木はなかなか〇〇しない
- 5.よく集団で吸水している
- 11.早春に咲くユリ科草本
- 14.〇〇哀楽が激しい

**ヨコのカギ**

- 1.東の間、はかないという意味で春の一時期だけ活動するものをスプリング〇〇〇と呼んでいる
- 6.早春の風物詩,シダの一種
- 7.クマの好物
- 4.猛獣
- 9.舐先のこと
- 10.〇〇スマレ、シロチョウ、カゲロウ
- 12.お茶の産地といえば
- 13.サトイモの葉柄の別名
- 15.葉がウメに似ているのでこう呼ばれる

|   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|
| キ | ト | キ | ト | キ | ト |
| キ | ト | キ | ト | キ | ト |
| キ | ト | キ | ト | キ | ト |
| キ | ト | キ | ト | キ | ト |
| キ | ト | キ | ト | キ | ト |

**フォレスト通信Vol.140**

発行者 森林インストラクター東京会

編集 広報部会 清水好博 西出幸子

取材協力 萩原卓 立川洋一

イラスト 鈴木 歩

事務局長 藤岡 眞

所在地 〒260-0031多摩市豊ヶ丘1-58-1-202

メールアドレス:sfujioka0206@yahoo.co.jp